

ご提案黒にんにく製造機 300k処理／回

黒にんにく製造導入目的

1・生産性を高める（青果販売の2.5倍の収益）

※具体例 青果販売300k@1000円 合計30万円
黒にんにく販売300k@3500円歩留り70%合計73万円

2・保存性を高める（黒にんにくは長期保管可能）

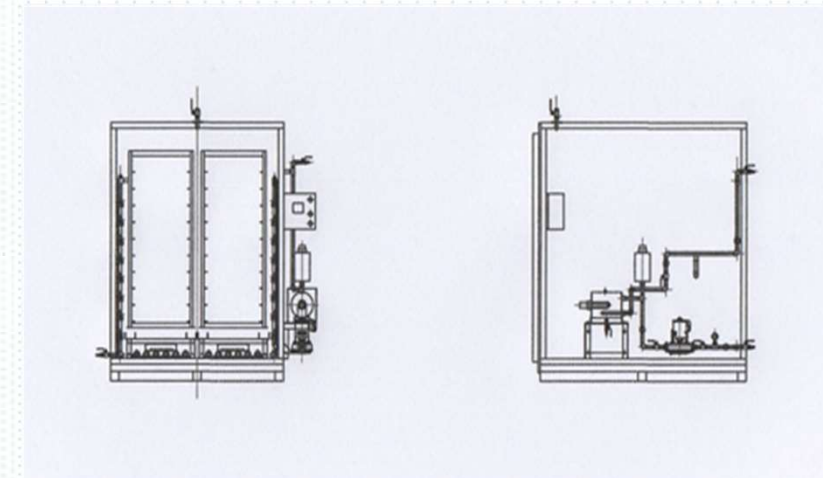
※具体例 青果保管(常温2ヶ月 冷蔵6ヶ月)以降は発芽で価値無し
黒にんにく保管(常温3ヶ月 冷凍2年保管可能 製品品質変化無し)

3・販路拡大（優良な黒にんにくを契機に取引開始）

※具体例 ネットなどで商品陳列することで評価いただき、青果販売可能

4・雇用・後継者の確保（若い方も取り組める環境）

※具体例 パッケージ、デザイン、販売など多種多様の業務
農業に触れ合う時間長くなることで生産技術を習得できる



ご提案にんにく乾熱処理機 500kg処理(11時間)

にんにく乾熱処理機導入目的

1・病害虫の防除

※具体例 イモグサレセンチュウ、ダニ等を早期乾熱処理することで、にんにくの腐敗を防ぐ。(収穫後2週間位から汚染されたにんにくは腐敗する)

2・種子にんにくの消毒

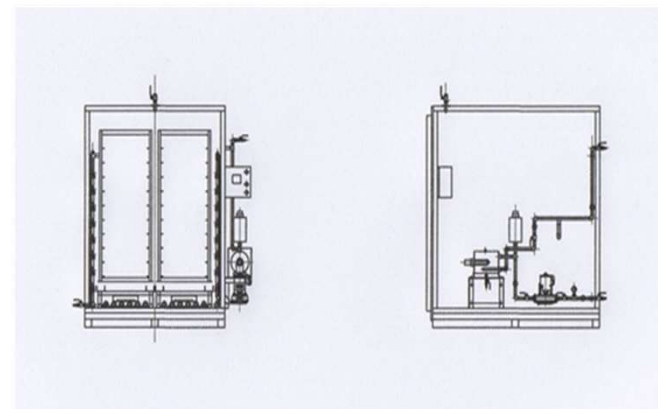
※具体例 イモグサレセンチュウに汚染された種子にんにくを植付すると、センチュウに圃場が汚染され作付け不能となる。

3・収量の増加

※具体例 乾熱処理後の種子と無処理の種子を比較すると収量が20%以上向上する。

4・自社種育成で安定栽培

※具体例 現在は安価な中国産の種子を使用してにんにく栽培しているが毎年種も変化し安定しない。優性遺伝の法則で自社の優良にんにくを種子として使用することで、安定した種子を継続して使用できる。



導入コストの軽減

黒にんにく製造機(300kg)

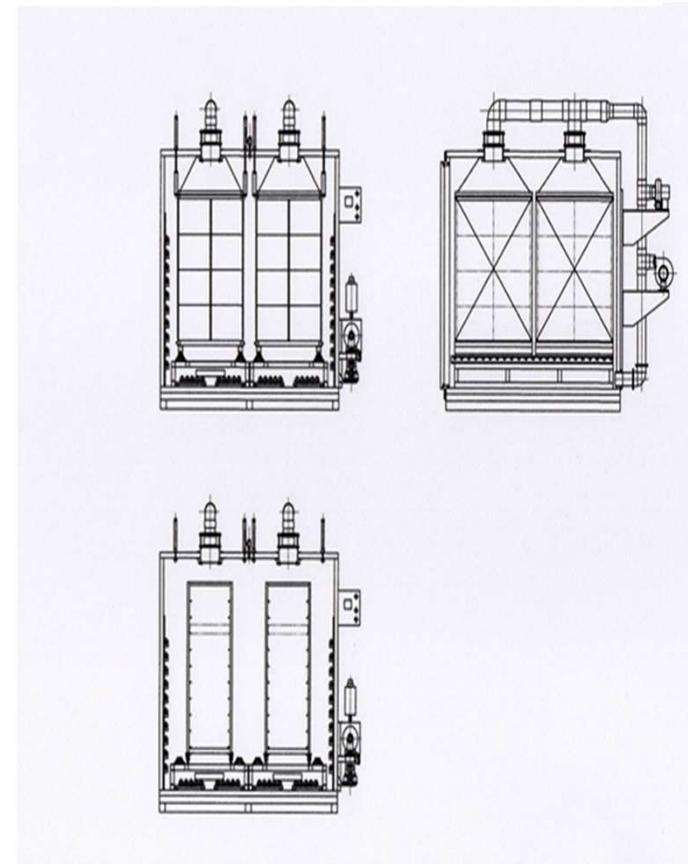


にんにく高温処理機(500kg)



別々に導入
合計1150万円

黒にんにく製造ハイブリット機



1台導入(黒にんにく660kg仕様)
合計9350万円

農業経営の基盤強化

- 豊作貧乏→ 一次加工可能な作物栽培→(保存可能、市場価格維持)
- 生鮮食品のため鮮度保持→一次加工→(保存可能、風味向上)
- 人手不足→食品製造手がけることで常時雇用可能
清潔な仕事(女性が働ける環境)
- 自然と向き合うだけの作業から、それ以外の、いろいろな知恵、情報を取得
- 収入安定→農業技術を会得

一次加工可能農作物

にんにく 玉ねぎ 米 生姜
半乾燥農産物 (大根寒風干し)

国の推進する6次化事業

農業の6次産業化生産の1次産業，加工の2次産業，流通の3次産業を融合させ，農業を「6次産業化」して付加価値の向上を目指す。

農山漁村の6次産業化

- 農林漁業者が生産・加工・流通(販売)を一体化し、所得を増大

〔 産地ぐるみでの取組
経営の多角化、複合化
農林水産物や食品の輸出 等 〕

- 農林漁業者が2次・3次産業と連携して地域ビジネスの展開や新たな産業を創出

〔 農商工連携の推進
バイオマス・エネルギーの利用 等 〕



儲かる農林水産業を実現

事業化に向けて

日本において、一次産業を取り囲む環境は、今後ますます厳しい状況が予想されます。その厳しさの要因の中でも最も重要視されることが、農業者の高齢化に伴う耕作者の減少から伴う耕作放棄地の拡大、人手不足などで離農者が増えている事と考えております。

事業者は農業生産現場の収益の向上と環境に恵まれない、人々の救済を両立させるべく農業生産現場での事業展開を図っております。

地方の存続は農業生産現場を切り離して考えることは出来ないものと考えます。農業生産者の経営維持は、市場経済(農協、市場)に依存しなくても、農業経営が可能なシステムを構築させることが必要と考えております。

今回の設備を導入することで
安定的なにんにく栽培を可能にできる事。
生産されたなにんくの保存性をよくする事。
黒にんにく製品を販売することで収益を増大させる事。
以上から安定的な農業経営の大きな役割を担うものと考えております。

農業を栽培から農業製品の販売までを可能とし、安定経営を可能にするにはそのシステムの構築に取り組む必要があります。

努力が報われる農業経営に少しでも寄与して参ります。